

さよなら、まいぶん

第5回 さよなら、まいぶん

日時 2015年1月24日

場所 金沢歌劇座 第6会議室

1. 赤塚次郎 (NPO 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク理事長)「文化遺産を機能化する NPO セクター」
2. 岡安光彦 (株式会社 四門)「もしドラッカーが日本の『まいぶん』の現状を眺めたら」
3. 対話「さよなら、まいぶん」

セミナーシリーズ第5回のタイトル「さよなら、まいぶん」の「まいぶん」は埋蔵文化財センター、あるいはそれを中心として整備された「埋蔵文化財調査保護体制」の略称である。第4回の羽生淳子氏の発言の中に、「戦後日本考古学の歴史は開発の歴史と裏表」というものがあった。大規模国土開発（高速道路や新幹線建設等がその典型）で考古学遺跡は壊されてなくなってしまう、それらを記録保存（遺跡はなくなってしまうが学術的な記録を残す、重要な発見があった場合等は現地在遺跡公園として保存される）するための緊急発掘調査を遂行しているのが埋蔵文化財センターで、都道府県・市町村の外郭団体であることが多い。日本は世界的に見てもそうした「行政＝官」主導の調査体制が非常に整備されている国のひとつで、「まいぶん」の調査では大きな面積を対象とすることも手伝って新聞紙面を賑わすような発見も多く、「まいぶん」は戦後日本考古学の歴史の一部でもある。近年、国土開発は未だ継続中とは言えかつてほどではないのと、不景気、行政そのものへの厳しい目、専門職員数がある時点から右肩下がり、等々が重なって、「まいぶん」周辺にはある種の閉塞感があることは第4回の対話中で堤隆氏が述べているとおりである。

第5回は、上記の状況の中で、「まいぶん」の人に「まいぶん」を真正面から語ってもらおうという趣旨でテーマを設定した。それには、筆者が学生時代に「まいぶん」の調査現場で接点のあった赤塚次郎

氏が最適と考えた。「まいぶん」の要職にある一方、これまでのまいぶん保護の枠組みとは異なるアプローチで文化遺産を活用した地域活性化事業に取り組む NPO を立ち上げたことを聞き及んでいたからで、「まいぶん」の人による「まいぶん」批評、批判の声が聞ける可能性があったからでもある。開催当時は赤塚氏が愛知県埋蔵文化財センターを定年退職するまであと二ヶ月のタイミングだったこともあり、「さよなら、まいぶん」というタイトルが生まれた。もう一人のゲストスピーカー、岡安光彦氏は赤塚氏の強い推薦で決定した。お声をおかけした時には「さよなら、まいぶん」というタイトルはすでに決定していたので、それに呼応する形で興味深い話題を展開していただけたと思う。

広報チラシには、NPO 古代瀬波の里・文化遺産ネットワークが管理する愛知県犬山市青塚古墳公園で開催された野点という、古墳と茶の湯がなぜか同居する風景を捉えた写真を配している。

文化資源学セミナー Seminar on Cultural Resource Studies
 主催：愛知学芸大学社会科学研究部 埋蔵文化遺産調査研究センター
 共催：愛知学芸大学人間社会科学研究部 文化遺産センター 連携プログラム
 『考古学と現代社会』第1期 Archaeology and Contemporary Society 5

さよなら、まいぶん SAYONARA, MAIBUN: Rethinking of MAIBUN

1 赤塚 次郎 AKATSUKA Jiro
 NPO 法人古代瀬波の里 文化遺産ネットワーク理事長
 NPO, Making Cultural Heritage Viable

2 羽生 淳子 OKAYASU Mizuko
 埋蔵文化財調査保護体制
 もしドラッカーが日本の『まいぶん』の現状を眺めたら
 "What If Dr. Tom Peters' Perspective"

3 対話：さよなら、まいぶん
 司会：吉田 豊樹 YOSHIDA Yasuyuki, Jiro ERTL
 (愛知学芸大学国際交流センター)
 Dialogue: Rethinking of MAIBUN
 AKATSUKA Jiro x OKAYASU Mizuko x Participants

2015
 1 / 24 (土)
 13:15 ~ 16:45

会場：赤塚次郎邸 野点会場
 会場案内：http://www.akatsuka-jiro.com/